

令和3年 山武市議会第4回定例会会議録 (第2日目)

○議長（能勢秋吉君） 以上で新政会、戸村勝敏議員の個人質問を終わります。

次に、さんむ21、石川和久議員の個人質問を許します。

石川議員、御登壇願います。

石川議員。

○7番（石川和久君） 議席番号7番、石川でございます。議長にお許しをいただきましたので、一般質問に登壇させていただきます。

いよいよ、今年最後の定例議会となりました。新型コロナウイルス感染症の脅威におびえて暮らす2年目となった今年は、1月に発令された緊急事態宣言から、千葉県では2度発令され、ほとんどが自粛期間だったようにも感じ、1年がとても短く感じております。

市内においても、多くの行事やイベントが中止になり、飲食店関係者をはじめ、多くの方が大変な思いをされたことと思います。

一方で、コロナウイルスワクチン接種が始まり、効果的な対策も始まったことから、現在は、日本において、山武市においても、コロナ感染者が急激に減少するなど、激動の1年間であったようにも感じております。

早いもので、1年、今年も全ての質問に登壇させていただきました。質問の機会をくださいました先輩の皆様、この場に押し上げていただきました市民の方々に、深く感謝を申し上げ、質問をさせていただきます。

はじめに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について伺います。

新型コロナウイルス感染症の影響により、1年間の延期、そして無観客での開催となりましたが、この夏、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。コロナウイルスが猛威を振るう中での開催ということで、様々な声もありましたが、スポーツへの関心が高まる意義ある大会であり、また、スポーツを通じて、見ている私たちに多くの感動を与えてくれた、素晴らしい大会であったのではないのでしょうか。

市では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催をグローバル化のチャンスと捉え、大会の開催効果を本市の発展に結びつけていくため、山武市東京オリンピック・パラリンピック戦略推進本部を設置し、戦略推進基本計画の下に進めてこられました。

山武市のオリ・パラ大会に向けてのコンセプトは、「当市が協力・応援して、オリ・パラを成功させる」、「地元選手を育成・支援するとともに、青少年のスポーツ能力の向上を図る」、「市民がオリ・パラを契機にワクワクと過ごすことができる活力あるまちづくりを目指す」、「成田空港から30分、東京から1時間といった地の利を生かしたシティセールスを行う」、「取組及び成果を次世代に継承する」とあります。

5つのコンセプトを基に、教育部会、招致部会、障がい者スポーツ部会、まちづくり部会と部会ごとに分け、様々な事業に取り組まれてきました。

このように、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に、市は大きく関わってきたわけですが、今後、市の将来の発展にどのようにつなげていくのか、コンセプトの最後にもありました「取組及び成果を次世代に継承すること」が、大変重要と考えております。

そこで伺います。市長は、大会開催の効果をどのように評価し、そして、今後どのように市の発展につなげていくお考えなのか、市長の考えをお伺いします。

○議長（能勢秋吉君） 市長、御登壇願います。

○市長（松下浩明君） 石川和久議員から、東京2020オリンピック・パラリンピック大会について、御質問をいただきました。

東京2020大会の開催決定を受けまして、早々に庁内横断的な戦略推進本部を立ち上げ、平成27年（2015年）4月から、オリ・パラ戦略推進室を設置して、取り組んできたところでございます。

国の掲げるホストタウン構想に、いち早く手を挙げて、スリランカ国の事前キャンプ地として、千葉県で唯一、第1次の登録がされ、その取組内容は、後に登録となった自治体の多くが参考にしたというように伺っております。

また、聖火リレーの招致の成功は、多くの市民の思いが通じたものであり、若い世代が、海外派遣など、国際交流の取組やグローバルな人材育成につながり、必ずや市の発展の礎となるものと期待をしているところでございます。

結果的には、新型コロナウイルス感染症の影響から、聖火リレーはセレモニーのみになり、事前キャンプの実施は見送り、そして、大会は無観客での開催と、当初期待していた盛り上がりはありませんでしたが、市内外にオリ・パラの取組を通じて、PRができたこと、また、市民の方々への国際理解への共生社会の経験や学びの場、また、異世代や異文化の交流機会を提供できたことなど、オリ・パラに取り組んできたことによる一定の効果はあったのではないかと感じております。

以上でございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） 今回の大会を通じて、次世代を担う子どもたちに、国際感覚やスポーツの楽しさ、また、ボランティア精神、障害者への理解などを身につけていただくために、大会後も、そして無形のレガシーとして引き継いでいくために、オリンピック・パラリンピックを活用した教育活動に取り組んでまいったことと思います。

そこで、教育長に伺います。教育長は、オリンピック・パラリンピック教育の成果と今後の取組について、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

○議長（能勢秋吉君） 教育長、御登壇願います。

○教育長（嘉瀬尚男君） 東京オリンピック・パラリンピック大会を契機にしまして、平成27年1月に、「スポーツによる青少年の健全育成」、「国際感覚を身につけた人材の育成」、「人権教育の推進」の3つの目標を掲げ、オリ・パラ教育推進に係る基本計画を策定し、平成29年度より、15の事業を実施してまいりました。

「スポーツによる青少年の健全育成」は、実際に感じる事業として、世界記録可視化事業を実施し、市内全小中学校に走り幅跳びと走り高跳びのパネルを設置し、世界記録を可視化することで、その記録の偉大さを感じ、トップアスリート教室では、サッカーやラグビーなどを体験し、また、アスリートの講演会では、スポーツへの興味・関心が高まるとともに、選手が逆境を乗り越えてきた話から、将来の夢の実現に向けて、大変大きな経験となりました。

また、パラアスリートによるスポーツ義足体験や、スポーツ車椅子体験では、交通事故や病気など、絶望感に打ち勝ち、スポーツに挑戦することになったきっかけなどといった話も聞くことができたほか、障害のある方、子どもから高齢者まで、誰でも一緒に競い合えるユニバーサルスポーツであるボッチャの大会を、パラリンピック代表選手を招き、開催をいたしました。

加えて、普段の教育活動の一環として、バリアフリーやユニバーサルデザインについての調べ学習を行い、障害のある方もない方も、お互いに助け合いながら、社会生活を営むことが本来の姿であることの理解が図られ、人権教育の推進に寄与することができました。

次に、「国際感覚を身につけた人材の育成」におきましては、異文化理解の取組として、市内全小中学校で、一校一国運動に取り組み、それぞれの学校が応援する国・地域を決めて、文化、食生活や言葉などを学び、講師を招いて、直接、話を聞き、体験型の活動を行いました。関連事業の他国紹介出前講座と併せ行うことで、異文化理解が図られています。

グローバル・コミュニケーションの能力向上としては、ALTによる幼稚園、こども園、小中学校で、英語教育やイングリッシュ・カフェを実施したほか、スリランカを対象とした山武市青少年派遣事業やスリランカ青少年招へい事業では、36人の中高生をスリランカへ派遣、また、10人のスリランカの青少年を招へいしています。派遣事業における現地での体験や招へい事業でのホームステイ受入れや交流など、異文化理解能力やコミュニケーション能力の向上につながったと考えています。

山武市教育委員会は、東京オリンピック・パラリンピック大会で得られた経験や成果を活かし、基本方針の一つである情報化・グローバル社会で活躍できる人づくりにつながる教育活動を、今後も引き続き行ってまいりたいと思います。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） 市長、教育長、ありがとうございました。

次に、国のホストタウン事業に、いち早く手を挙げ、山武市のスリランカ選手団事前キャンプ地として、スリランカ国のホストタウンとして登録し、スポーツや文化を通じた交流を深めてまいりました。

2016年にホストタウンとして登録されてから、約6年が経つわけですが、まず、確認の意味で、スリランカ国のホストタウンとなった経緯についてお伺いしたいと思います。

○議長（能勢秋吉君） 総合政策部長。

○総合政策部長（荒木康之君） 市内の小学校の元校長先生が、スリランカの子どもの教育支援を行っていて、僧侶を通じて、政府とコネクションがあるとの市民のお話がきっかけで、調べると、同じアジアの島国で、仏教中心の親日国であること、当市で事前キャンプを行うに当たって、見込まれる選手数やこれまでの出場種目から、施設貸与がしやすいこと、歴史的なつながりも深く、相手方も前向きであるとのことから、話が進んだものと承知しております。

相手側との基本合意に基づいて、事前キャンプ地の受入れ対応や、市民などから提供されたスポーツ用品を送る取組などで、親交を深めてきました。

また、青少年の交流事業では、4年間で36人の中高生がスリランカを訪問し、異文化に触れ、先ほどもお話があったとおり、10名の若いアスリートが本市を訪れ、学校訪問やホームステイを通じて、交流を図ってきた経緯があります。

若い世代へ国際交流の機会を提供し、グローバルな人材育成に取り組むホストタウン自治体としての評価をいただけたものと考えております。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） スリランカ国との交流は、山武市にどのような効果をもたらし、また、今後、スリランカ国との交流については、どのようにお考えかを伺います。

○議長（能勢秋吉君） 総合政策部長。

○総合政策部長（荒木康之君） 先ほどお話ししたとおり、グローバルな人材に取り組むホームタウンとして、評価はいただけたと考えております。

今後の取組ですが、今年度はコロナ禍にあって、東京2020大会の前から、当初、見込んでいたアスリートと市民との直接的な交流の機会は難しい状況でしたので、現在、リモートでの交流を進めております。

オリンピックの直前を含めて、これまで3回実施し、現在、海外研修に参加して、ボランティアの登録のあった方々との交流を計画しているところです。

また、展示イベントとして、聖火リレーとホストタウン展の開催と、これまでのオリンピック・パラリンピックの関連事業の取組をDVDにまとめる予定でございます。

来年度以降のスリランカとの交流ですが、スリランカのオリンピック委員会や

パラリンピック委員会との関係は、一区切りと考えておりますが、スポーツ大臣と基本合意した青少年の相互交流事業は、相応の効果が見られることから、一部内容を見直した上で、継続していきたいと考えております。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） オリンピック・パラリンピックを通じて、スリランカ国との交流を深めてきました。今後も、スリランカ国であってよかったと、市民の方が思えるように、スリランカ国との交流を深め、そして、国際交流の感覚を子どもたちに身につけていただけるような教育を踏まえて、ぜひ取り組んでいただければと思います。

次に、成東総合運動公園の陸上競技場について伺います。

本来であれば、事前キャンプ地としての練習場として整備された競技場でございますが、残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大により、事前キャンプを断念したことにより、使用せずに終わってしまいました。当時の感染状況を鑑みれば、仕方のなかったことだと、私も思いますし、市の判断を私もすごく理解をしております。

約3億4,000万円を投じ、整備した競技場ですが、大会後も、市にとって必要なレガシーとして残せるかどうか重要であり、市民にとって有効活用されていくことが必要であると考えております。

そこで、伺います。現在の陸上競技場の活用状況について伺います。

○議長（能勢秋吉君） 教育部長。

○教育部長（小川宏治君） 現在の利用状況についてお答えいたします。

成東総合運動公園の陸上競技場は、主に市民の競技能力や技術の向上、また、体力、健康の維持・増進の場としての活用を考えているところです。

陸上競技場はサッカー場兼用でありますので、陸上競技やサッカーの大会や教室、練習にと、多くの方に利用していただいているところでございます。

令和3年度10月までの開園日における利用率につきましては、約70.2%で、土日・祝日に限りますと、90.7%と、高い利用率の状況でございます。

一方、平日の利用率は57.5%にとどまっており、利用率向上のため、市内小中学校の学校行事等での利用促進や、改修工事により、陸上、サッカーに加え、ラグビーでの使用も可能となったことから、関係スポーツ団体への誘致活動など、市外への利用拡大も含めた、利用率の向上に努めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） 次に、平成29年に完成してから4年が経過しますが、現在までの修繕状況について伺います。

○議長（能勢秋吉君） 教育部長。

○教育部長（小川宏治君） 修繕の状況でございます。

4年間を経過したところでございますが、その4年の使用と経年により薄くなったインフィールドの人工芝のラインの補修等軽微な修繕を実施しておりますが、その他、現在まで修繕の必要な大きな不具合等は発生していない、大きな修繕はしていないという状況でございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） 陸上競技場の維持管理のために、今後どのくらいの経費が見込まれているのかをお伺いします。

○議長（能勢秋吉君） 教育部長。

○教育部長（小川宏治君） 今後の経費に関する御質問でございます。

使用頻度や使い方にもよりますが、改修からおおむね15年程度で、人工芝の張り替えが予想されております。費用は、約1億円程度かかるということでございます。

それまでの間にかかる経費でございますが、主に清掃等の日常管理経費のみで、損傷等が発生した場合には、部分補修で対応する予定でございます。

陸上競技トラックのゴムチップウレタン舗装につきましては、こちらも使用頻度によりますが、一般的におおむね20年程度で薄くなった舗装面とラインの修繕工事が想定され、費用は、全面を施工した場合には、やはり1億円程度が見込まれるということでございます。

実際の修繕工事の実施時期につきましては、人工芝やウレタン舗装の損耗状況に応じて、判断してまいりたいと考えております。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） ありがとうございます。

まず、利用状況としては、70.2%、土日としては、90.7%ということで、利用率としては、非常に素晴らしいものなのかなと思います。

修繕等も、経年劣化の部分では、お金がかかってしまうということで、今後、市民の方に、どのようにグラウンドをスポーツ振興の場として使っていただけるか、利用状況としては、素晴らしいということは分かりました。

しかしながら、新しくいいものであれば、使っていただけるのは、目に見えていると思いますか、皆さん使っていただけますので、市が、これからどのようなスポーツ振興の政策を行って、山武市のスポーツ振興を活性化させていくかが、私は重要だと考えております。

陸上競技場を最大限に活用し、さらなる市のスポーツ振興政策を図る必要があると思いますが、もし具体的な今後の取組や計画等がありましたら、お聞かせください。

○議長（能勢秋吉君） 教育部長。

○教育部長（小川宏治君） お答えいたします。

市では、東京オリンピック・パラリンピックの機運を高めるため、トップアスリートスポーツ教室として、スポーツに関する各種事業を実施してまいりました。

成東総合運動公園サッカー場においても、国際交流サッカーフェスタを開催したところでございます。

これらの事業で、様々な種目で、一流選手から直接指導を受けたことは、スポーツに対する関心を高め、技術の向上を図るだけでなく、心身の成長につながる有意義なものであったと考えております。

今後につきましては、具体的な計画は、まだ立ててはいないところでございますけれども、これまでの実施してまいりましたトップアスリートスポーツ教室事業の経験を生かしまして、青少年のスポーツ振興施策を計画、実施してまいりたいと考えております。

また、市の総合計画におけるスポーツ振興の施策の目指す姿であります、各世代、より多くの市民が継続的にスポーツに取り組み、心身ともに健康な生活を営むことができるよう、この陸上競技場を活用した事業を推進してまいりたいと考えております。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） 陸上競技場は、すばらしい競技場ですので、ぜひ、いろいろな市のPR、また、先ほど教育長のほうからお話がありましたけれども、パラアスリートによる義足体験なども、あのグラウンドを使ってでも、できたりするんじゃないでしょうか。

今、コロナの状況ですけれども、またスリランカの選手団の方に来ていただいて、子どもたちに教室をして、あのグラウンドを使って行うことも、非常に意義があるものだと思います。

オリ・パラがあって、あの競技場があるんだということを、まず市民の方に十分知っていただく。利用者の中でも、オリ・パラ関係で、あの競技場があるということを知っている方のほうが少ないように、私は感じております。ぜひ、オリンピックがあったからこそ、あの競技場があるんだということを次世代につなげて、市のスポーツ振興に寄与していただきたいと思います。

次の質問に入ります。

次に、財政運営についてお伺いします。

新型コロナウイルスの感染が、令和2年1月に国内で初めて確認されてから、1年10か月が経過しました。その間、千葉県においても、3度の緊急事態宣言が発令され、山武市民や市内事業者をはじめ、市の財政にも大きな影響を与えています。

本市の財政状況については、本議会開会日の政務報告の中で、市長から、「今後、歳入の減少が懸念される一方で、社会保障費などの義務的経費は、引き続き増加が見込まれることから、将来の世代に負担の先送りとならないよう、持続可能な財政運営を行い、本市の身の丈に合った予算編成を行う必要がある」との説明がございました。

そして、令和４年度当初予算編成に当たっては、第２次山武市総合計画との整合性を図り、全ての事業について、優先度や緊急性、費用対効果の検証を行い、最少の経費で最大の効果を発揮するための予算を組むよう、通達を行ったとのことでした。現在、令和４年度当初予算編成を行っているところであると思います。

そこで、令和４年度の歳入見込みについて伺います。歳入のうち、大きな割合を占める市税と地方交付税について、現在の見通しはどうかを伺います。

○議長（能勢秋吉君） 財政課長。

○財政課長（秋葉一徳君） 令和４年度の歳入見込みでございますが、主要財源であります市税のうち、個人市民税につきましては、人口減や新型コロナウイルス感染症の影響による収入減により、納税義務者数の減少を見込んでいますが、一方で、経済活動が上向く見通しにより、前年度並みを見込みます。

また、法人市民税につきましても、景気の回復傾向による増額を見込んでおります。

固定資産税は、令和３年度において行われている新型コロナウイルス感染症関連の徴収猶予の特例が終了するため、こちらも若干の増額を見込んでいるところでございます。

次に、地方交付税につきましては、令和３年度当初予算では、普通交付税につきまして、合併算定替特例期間の終了や国勢調査人口の減により、交付額の減少を見込みましたが、交付税の算定において、地域デジタル社会推進費など、新たな算定項目の追加や、人口急減補正が講じられたことによりまして、当初の見込みよりも、交付額が増加したため、令和４年度につきましては、今年度並みの交付額を見込んでいるところでございます。

なお、その他、各交付金や市債などにつきましては、増減はありますが、歳入全体では、令和３年度と同程度の規模になる見通しでございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○７番（石川和久君） 今の答弁で、市税については、新型コロナウイルス感染症による影響が、今後、回復に向かうことや、普通交付税についても、合併算定替特例期間の終了や国勢調査人口の減少による影響が、思ったよりも少なく済んだというような感覚をいただきました。

では、令和４年度の歳出予算の見通しについては、どうでしょうか。

○議長（能勢秋吉君） 財政課長。

○財政課長（秋葉一徳君） 令和４年度の歳出見込みでございますが、当初予算編成に当たりましては、次年度における新規事業や大幅増となる事業などの投資的事業の実施可否を決定後、そのほかの経常経費を含めた歳出総額を歳入見込みと比較し、不足する額については、財政調整基金繰入金とシーリングによる削減で、調整を図ることとしております。

令和４年度については、投資的事業を決定した時点で、歳出総額が歳入見込みを１１億７、４００万円上回っている状況でしたが、当初予算編成方針において、財政調整基金繰入金の

目標額を10億円と定め、不足する額を投資的事業や義務的経費等を除いた経常的経費に対し、8%のシーリングにより、削減を図ることとしました。

シーリングの達成に向けては、部別予算枠を設定し、各部長の下、各部において調整を行っております。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） 次に、平成30年度に示された長期財政計画について、その後、新型コロナウイルス感染症が国内で発生し、現在のような状況となっていますが、財政調整基金も含んだ現在の状況はどうでしょうか。

○議長（能勢秋吉君） 財政課長。

○財政課長（秋葉一徳君） 平成30年度にお示しをさせていただきました、長期財政計画を踏まえた現在の状況でございます。

まず、財政調整基金残高につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の縮小・中止が相次いだことや、国から新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が交付されたことにより、コロナ禍で実施する事業の財源が確保されたことから、計画に近い額で推移している状況でございます。

しかしながら、計画されていた大型事業におきましては、事業スケジュールの変更等により、計画との乖離が発生している状況でございます。

そのようなことから、現在、新たに令和3年度から令和12年度までの10か年の長期財政推計として、見直しを行っておりますが、その中では、今後の地方交付税の動向を踏まえながら、人口減に伴う税収減や高齢化の進展によります社会保障費の増大、また、今後見込まれる大型事業の実施に伴う市債償還の影響なども考慮して、見直しを行っている状況でございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） 財政調整基金については、計画に近い額で推移していると、今、御答弁をいただきました。

今後、大型事業も予定されていると思いますので、ぜひ、現在見直しを行っている財政計画により、しっかりと先を見据えて、持続可能な財政運営を行っていただきたいと思います。

それでは、この状況を踏まえまして、市長にお伺いします。

令和4年度予算は、現任期中に市長が編成する最後の当初予算となります。一方で、来年4月に選出される新市長の任期の初年度でもあります。来年度予算の重点施策については、どのようにお考えでしょうか。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） 令和4年度の予算は、私が任期中の最後に編成する当初予算とい

うことになります。それも含めまして、先般、知事へ訪問させていただきまして、知事としてみても、初めて当初予算を編成するということで、山武市の現状と山武市の要望を、知事にもお伝えしてまいりました。

また、その後、22日に、知事も山武市に視察に見えられたときにも、また、併せて、現地を見ていただいたり、要望をできるところは、しっかりと要望したところでございます。

令和4年度予算の重点施策については、山武市のまちづくりを停滞させないために、第2次総合計画及びその重点分野に基づいて予算を編成することが、最も適正であると考えております。

特に人口減少対策と新型コロナウイルスの感染拡大に伴う新しい社会への対応は、令和4年度の新たな任期期間においても、普遍的な課題として、重点的に、継続的に取り組むべきというように考えております。

以上でございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） 具体的には令和4年度から、新たな事業あるいは強化する事業については、どのようなことを市長はお考えでしょうか。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） 令和4年度当初予算に計上を予定している事業につきましては、来年度完成予定の松尾小学校新校舎整備事業など、継続して実施する大型事業のほか、交通安全対策として、引き続き実施する道路改良事業、また、人口減対策としての結婚応援事業や三世代同居等支援事業、そして、新型コロナウイルス感染拡大に伴う新しい社会への対応として、SDGs宣言制度導入事業や商店等魅力発信事業など、ソフト事業の計上も予定をしているところでございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） ありがとうございます。

市長は、先ほど北田議員の質問のほうで、2期目の挑戦をされるというようなお話をされておりました。とすれば、次の予算で組んだ事業などは、市民に向けて、次にお示ししたい事業であると私は捉えております。

いろいろと継続する大型事業などがございますが、引き続き、先ほどのお話にありました、合併算定替の特例の終了や人口減による歳入の減少は、思ったより少なく済んだということでもありますけれども、さんむ医療センター建設、学校給食センターの建設等、大型事業が控えています。

市民からも、市長は大丈夫かねと聞かれることも、よくあります。議員の皆さんも、恐らく聞かれているのではないのでしょうか。新しい財政計画をおつくりになるということで、それを基に、引き続き健全な財政運営に努めていただきたいと思います。

○議長（能勢秋吉君）　ここで暫時休憩いたします。再開は午後１時15分といたします。

（休憩　午前１１時５９分）

（再開　午後　１時１３分）

○議長（能勢秋吉君）　再開します。休憩前に引き続き、会議を開きます。

石川議員。

○７番（石川和久君）　引き続き、質問をさせていただきます。

次に、成東駅周辺の道路整備事業について伺います。

まず、都市計画道路成東駅南口線事業でございます。

この質問は、私自身でも、この場をお借りしまして、３回目の質問となりますし、ほかの議員からも多く質問をされております。それだけ市民の方の関心は高く、重要な事業であると、私も認識をしております。

まず、現在の進捗状況について伺います。

○議長（能勢秋吉君）　都市整備課長。

○都市整備課長（遠藤和彦君）　お答えします。

成東駅南口線事業は、既に供用を開始している成東駅南口駅前広場と国道126号を結ぶ都市計画道路事業であり、事業主体は千葉県となります。

県に確認したところ、令和３年11月末時点における用地買収については、用地買収面積の約８割が買収済みであり、事業延長約300メートルのうち、まとまった用地が確保できた、国道126号から変則十字路までの約100メートルについて、供用を開始していると聞いております。

○議長（能勢秋吉君）　石川議員。

○７番（石川和久君）　冒頭に申し上げましたとおり、市民の関心は非常に高く、成東駅南口線の早期完成を望む声を非常に多く耳にします。

事業を一刻も早く進めるべきだと思いますが、市としては、この辺はどう考えておりますでしょうか。

○議長（能勢秋吉君）　都市整備課長。

○都市整備課長（遠藤和彦君）　成東駅南口線は、成東駅南側の骨格となる道路であり、既に供用を開始している成東駅南口駅前広場とともに、山武市のいわゆる顔となるべき箇所であると認識しており、供用を開始することにより、成東駅周辺の活性化に寄与するものと考えております。市としましては、早期完成に向けて、事業主体である県に引き続き協力してまいります。

○議長（能勢秋吉君）　石川議員。

○７番（石川和久君）　この質問を多くされていますので、進捗状況といっても、なかなか変化が見られないことが現実なのかなと思います。

要望ではないんですけれども、お願いがございます。本来なら、平成30年でしょうか、完成予定だったと思いますが、これだけ長期化されますと、川合課長から遠藤課長に替わられたように、県も担当の職員が替わってきているのかなと思います。

この計画で、当初行われた説明、または説明会を途中で開かれたと思いますが、そのときの市民の御意見や御要望など、担当の職員が替わっていると、この辺の情報の共有ができておらず、また、市民の方に、様々な不信感や御迷惑をおかけするようなことになりかねませんので、そういった情報共有も踏まえて、改めて説明会等の要望をいただいた中で、今、用地交渉が済んでいる方でも、いろいろと状況をお伝えし、丁寧な説明をしていただきたいと思います。その辺を強く県のほうにお願いをしてください。

次に、成田駅北側周辺整備について伺います。

こちらも、私自身でも2回目の質問となります。議会でも、度々こちらも質問が出ていますが、いま一度、現状から今後の進め方について、数点伺います。

第2次山武市総合計画では、基本計画における重点分野の一つとして、駅周辺の利便性の向上を掲げており、成東駅北側道路整備を進めることが明記されていますが、成東駅北側周辺の状況はどうかを、まず伺います。

○議長（能勢秋吉君） 都市整備課長。

○都市整備課長（遠藤和彦君） お答えします。

成東駅北側周辺は、かつて区画整理等による大規模開発の構想等もありましたが、現在まで実現することなく、一部で生活道路等の基盤が不足し、消防活動や交通安全上の問題を抱えております。

また、成東駅北側には、当時の大規模開発等を想定の下、都市計画決定された道路、いわゆる都市計画道路が存在しておりますが、工事に至る事業化はされていない状況でございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） 次に、成東駅北側道路整備に向けた現在の動きについては、どうなっていますでしょうか。伺います。

○議長（能勢秋吉君） 都市整備課長。

○都市整備課長（遠藤和彦君） 成東駅北側道路整備に向けては、既に決定されている都市計画道路の取扱いを明確にし、都市計画道路の見直しをする必要があることから、これまで成東駅北側周辺の課題整備とともに、在り方を検討してきたところでございます。

現在、山武市で都市計画決定した都市計画道路和田新泉線を主な対象に、整備ルートの検討や関連する土地の境界確定測量を実施しながら、事業化に向けた関係機関協議を進めているところでございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） 成東駅北側周辺整備ですけれども、成東町時代からの問題となっております。成東駅北側周辺整備は、このように、長い間、事業化できていませんけれども、その要因については、どう考えていますか。伺います。

○議長（能勢秋吉君） 都市整備課長。

○都市整備課長（遠藤和彦君） 先ほど答弁させていただきましたとおり、成東駅北側周辺における都市計画道路は、かつての大規模開発等を想定して決定されており、道路等の整備手法は、主に大規模開発に合わせて、一体的に整備する考えでいたことから、開発需要がない状況下において、道路整備の事業化は困難であったと考えられます。

また、成東駅北側周辺の現場条件といたしまして、軟弱地盤や排水先の容量確保が困難なこと、国道126号や山武成東インターチェンジに通じる隣接地区においても、幹線道路の整備が進んでいないことも要因と考えております。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） 今、様々な問題点を御答弁いただきました。

それでは、その状況を踏まえて、成東駅北側周辺整備については、今後どのような進め方をしていくのかを伺います。

○議長（能勢秋吉君） 都市整備課長。

○都市整備課長（遠藤和彦君） 現時点でございますが、成東駅周辺において、宅地開発の需要が見込まれないことから、比較的实现可能な範囲に見直した宅地開発等を将来のまちづくりとして念頭に置きつつ、道路を先行して整備することを検討しております。

先行して整備する道路の対象は、主に都市計画道路和田新泉線でございます。現在、決定されている都市計画道路ネットワークやその他の主要道路の接続条件等を考慮して、見直すことを検討しております。

なお、都市計画道路の見直しにつきましては、都市計画法に基づく都市計画の変更手続が必要なことから、必要な調査や設計、資料や関連図書の作成について、令和4年度に実施することを予定しております。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○7番（石川和久君） ありがとうございます。

南口整備、北口整備ともに、非常に御苦勞も多いことと思いますけれども、引き続き、早期完成を目指して取り組んでいただきたいと思います。県のほうにも、しっかりとお伝えされますようお願いいたします。

以上で、私の質問を終わりにします。

○議長（能勢秋吉君） 以上でさんむ21、石川和久議員の個人質問を終わります。